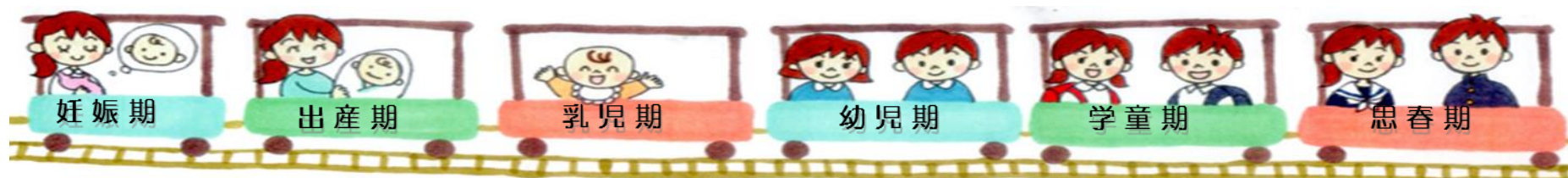


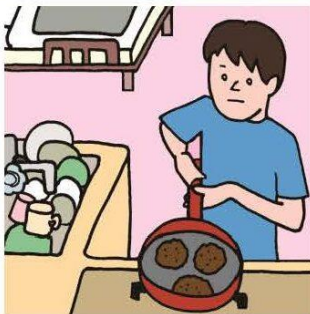
ヤングケアラー支援について



ヤングケアラー支援について

ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

令和2年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業(子ども・子育て支援推進調査研究事業)
中高生の生活実態に関するアンケート調査結果(抜粋)

【アンケート調査対象者】

- ① 全国の公立中学校の約1割にあたる 1,000 校の中学2年生を対象(約 10 万人)。
- ② 全日制高校 全国の公立高等学校の約1割にあたる 350 校の高校2年生を対象(約 6.8 万人)。

【調査方法】

- ・対象の学校等を通じてインターネットで回答

【調査項目(概要)】

- ・世話をしている家族の有無、負担感、支援を必要と感じているか等

【調査結果(概要)】 回答数 ①中学2年生 5,558人 ②高校2年生 8,219人

- 世話をしている家族が「いる」と回答したのは、**中学2年生が5.7%、全日制高校2年生は4.1%** 定時制、通信制は更に多い。
- 「きょうだいのケア」が最も多く、次いで「食事の世話」、「食事以外の家の中の家事」、「見守り」、「感情面のケア」、「家族の身体介護」、「通院の付き添い」、「家族の身体介護のうち、トイレや入浴の介助」、「通訳」、「金銭管理」、「その他」と続く
- そのうち、**世話の頻度は「ほぼ毎日」と回答した者が3～6割程度**
- 平日1日あたりで世話に費やす時間は「3時間未満」との回答が多いものの「**7時間以上**」と回答した者も**1割程度**いることが明らかになった。
- 約15～16%が「自分はヤングケアラーにあてはまる」と回答している一方で、「**あてはまらない**」と回答しているのが約**42～47%**

調査結果(参考)

図表－76 世話をしている家族の有無

	(調査数 n)	いる	いない	(%) 無回答
中学2年生	5,558	5.7	93.6	0.6
全日制高校2年生	7,407	4.1	94.9	0.9
定時制高校2年生相当	366	8.5	89.9	1.6
通信制高校生	445	11.0	88.1	0.9

学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

◇ 中学2年生、全日制高校2年生、定時制高校2年生相当、通信制高校生ともに「特になし」が約4割となっているが、次いで、中学2年生、全日制高校2年生は「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」、「自由に使える時間が欲しい」、「進路や就職など、将来の相談にのってほしい」、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」と続く。全日制高校2年生は「家庭への経済的な支援」が他に比べてやや高い傾向にある¹²。

多機関・多職種連携によるヤングケアラー支援マニュアル(R4.3月) ～ケアを担う子どもを地域で支えるために～

地域の支援体制や社会資源などそれぞれの実情に合わせ、支援に関わる担当者がより適切な方法を考えていけるよう、多機関・多職種が連携して行う支援方法を取組事例を交えながらまとめたもの

ヤングケアラーのことをよりよく理解するためのヒント(マニュアルより抜粋)

- ヤングケアラーは、成長や発達途中でケアを担うため、年齢に合わない過度な負担を子ども時代に負った場合、**その後の人生にまで影響を受けることがある。**
- **子どもは自分の家庭しか知らずに育つことが多く、客観的な視点も持ちにくいことから、自分の担う家庭内役割が他と異なることに気づきにくく、現在の状況が当たり前だと感じていることが少なくない。**
- 本人や家族に自覚がない状態では、**自分からサポートを求めることも難しい。**
- **家庭のことを知られたくないと思っていることも多い。**家族に病気や障害を抱えた人がいることを恥ずかしいと捉えている場合や口止めされている場合もあり、家庭のことは隠すべきものと思っていることもある。
- 本人としてはケアをしたくないわけではなく、**負担になっていても大切な家族のために自分からケアをしたいという想いがあることも少なくない。**ケアすることを否定されると**自分がしてきたことを否定されたように思ってしまうこともある。**

- ケアをしている状況について可愛そうと憐れまれることを嫌がる場合もある。**家族をケアすることで優しくなる、責任感が芽生える等の良い側面もあり、単純に悪いことだと思われたくない。**
- ケアを受けている家族を悪く言われたくないと感じている場合も多く、ヤングケアラーの役割を子どもに担わせているという理由で**家族が責められることで本人も傷つく可能性がある。**
- 信頼できる大人はいないと思っていることもある。**大人に助けられた経験が少なく、人に頼ろう、相談しようという発想がない場合もある。**
- 家族が時間的、精神的に余裕がないことも多く、**本人は話を聞いてもらう機会が少ない場合もある。**
- 大人の役割を担うことで他の子どもと話が合わないことや大人びていることがあり、また、現実的に遊ぶ時間がないこともあって、**孤独を感じやすい。**

本人にヤングケアラーという自覚がない場合も多く、子どもらしい生活が送れず、誰にも相談できずに日々ひとりで耐えている状況がうかがえる。

【加賀市の今後の取り組み】

- 県の研修会の参加
- 会議等を通じて、周知・啓発を行う。関係機関とのマニュアルの共有
- 「ヤングケアラー」と思われる児童を発見したときには、今までどおり、関係機関と連携・協力し情報を共有し、世帯にに応じて必要な支援を行う。

石川県

- 6月20日から県内小学6年生、中学2年生、高校2年生の調査実施
- 8月～9月集計・結果分析
- 10月公表・市町福祉職員・教員向け研修の実施予定

北 国 新 聞

2022年（令和4年）6月16日（木曜日）

ヤングケアラー 20日に調査開始

県、10月にも結果公表

県は、家族の世話などをして日常的に行う18歳未満の子ども「ヤングケアラー」の初の実態調査を20日から実施する。県内の小学6年生、中学2年生、高校2年生の計約3万人が対象で、学校を通じて調べる。結果を8

9月に分析し、早期支援体制を構築する。

調査は世話をしている家族の有無や負担感、支援を必要としているかなどを尋ねる内容で、インターネット上で回答する形となっている。結果は10月にも公表する予定で、市町の福祉職員や教員を対象とした研修も実施し、対応マニュアルや支援のポイントを周知する方針だ。